

第 1 回検討委員会における意見

(渡波中学校)

1 学校施設への具体的な意見について

- ・新しい校舎でも大人の目が効くように、「死角を少ない」形にしてほしいということである。地域の人に学校を開いても、死角を少なくし、地域全体で子どもを見ていくということが大事だと思う。

2 開校時期について

- ・できればもっと早い時期に開校してほしい。仮設校舎を見せてもらったが、床も振動するし、子どもたちも可哀想だ。いくらかでも時期を詰めてやることは出来ないのかと感じている。
- ・新しい校舎を建てるのは時間がかかってしまうだろうが、可能ならばグランドだけでも先に作ることはできないだろうか。運動会や部活動等の問題も考慮してほしい。

3 特色のある学校づくりについて

- ・「地域に根差す」という話があったが、このままではどんどん蛇田地区に人が移っていく。地域間の問題としても、中学校が出来れば渡波地区にとっては良い影響が出る。期待したい。
- ・地域住民とともに、交流の場を創り上げていくというイメージは出来たものと思う。一方で、学校を地域に開いていくことの問題もあるのだと思うし、その辺も考慮しながら、渡波の地域性を踏まえてよい学校を作りたい。
- ・勉強をしっかりとさせたい。地域の皆さんからは特色という話もあったが、例えば、ICT機器の利用といった特色はどうだろうか。現在も電子黒板があるが、新しく開校する学校については、1人1台、端末を持って授業を行う施設にできないか。

4 子ども達等の学校づくりへの参画について

- ・これまでの経験で上手くいかなかったことについて、地域と一緒に意見交換しながら、経験を活かした学校を創り上げていきたい。
- ・中学生という年齢を考えると、学校づくりに何らかの形で参画してもらっても有益ではないか。

5 地域の安全を確保するための学校づくりについて

- ・震災の経験からすると、学校の1階には出入口を設けず、教室も何も作らない方が良い。
- ・学校の防災計画はどのようになっているのか。震災の時には津波が来るにも関わらず体育館を避難所として、地域住民も犠牲になったようだ。そうした例もあるので、計画の作り方を確認しておきたい。
- ・学校は、安全・安心であることが大前提であると思う。また、災害時における避難者の迅速な受け入れなどの体制づくりについても、ハード面と併行して考えていくことが必要だと感じている。
- ・今回の津波を経験している身からして、1人の子どもも亡くならない安全を考慮した、全国に自慢できる学校を創り上げたい。
- ・津波だけでなく、地震からも強い校舎を望みたい。避難の在り方や避難所に重点をおいて家族と話したことを、次回お話ししたいと思う。
- ・1階に出入口を作らないとの発言があったが、一方で渡波地区の新市街地は1階から建築することが許されている。「なぜ学校だけ」という話にもなると思うし、一方で2階を昇降口とすること自体の問題もあると思う。ピロティを作るのは相当な金額を要する。
- ・この検討委員会は、希望を出して教育委員会に「よろしく」とするのではなく、どの程度安全にするのか、どの程度資金をつぎ込むのかについても議論できればいい。

6 地域活性化の呼び水としての学校づくり

- ・「地域に根ざす」という話があったが、このままではどんどん蛇田地区に人が移っていく。地域間の問題としても、中学校ができれば渡波地区には良い影響が出る。期待したい。
- ・地域住民とともに、交流の場を創り上げていくというイメージは出来たものと思う。一方で、学校を地域に開いていくことの問題もあるのだと思うし、その辺も考慮しながら、渡波の地域性を踏まえてよい学校を作りたい。
- ・渡波地区は、昔からのコミュニティもあり、子供も元気な地区。町づくりの核となる学校を見本に作ることで私自身もお役に立ちたい。